

昭島礼拝 2020/3/29

聖書：マルコ 13:21-31

主題：キリストの再臨について

賛美：

みなさん、おはようございます。今日はイエス様が世の終りについて語られた聖書箇所を開いて頂きました。教会でよく聞かれる質問の一つに、世の終りについての質問です。それがいつなのか、世の終りにはどのようなことが起こるのか、もう起きてしまったのか、今どのあたりなのかということです。私自身も、教会生活を続けていく上で同じような疑問をよく持ちました。そして教会で牧師にきいてみると、なんだかあやふやな答えが返ってきて、「もっとちゃんと教えてくれなければ、もしもの時に困るじゃないか!」と思いました。そして今、逆の立場になってみなさんにあやふやな回答をしているんだらうなどと反省させられます。どうしてこのような疑問がたくさん出てくるのかと言えば、とても不安だからだと思います。自分のいのちについて不安、家族について不安、そして痛い思い、苦しい思いをするのではないかという恐怖ですね。これらの思いが世の終りを知りたいという思いにさせるのだと思います。結論から言いますと、世の終りがいつなのか、それは私たちには分かりません。と聖書に書いてあります。いつになるか分からないから、ただ父なる神様を信じなさいとイエス様は仰います。今日はマルコ 13 章のイエス様のお言葉から世の終りのことについて考えてみます。

13 章でイエス様とお弟子さんたちは、エルサレムの神殿を歩いていました。お弟子さんたちはガリラヤという田舎の出身で、大きな建物は普段あまり見ていなかったと思います。祭りの時に、エルサレムにやってくると、エルサレム

は都会ですし、立派な神殿もあります。きっとお弟子さんたちはいつも観光客のように「おお～。おお～」と言いながら、大きな建物を見ていたと思います。神殿から出ていく時、改めてお弟子さんは神殿の建物の素晴らしさを見ました。そしてイエス様に言います。「先生。ご覧ください。なんとすばらしい石、なんとすばらしい建物でしょう。(マルコ 13:1)」するとイエス様は言われます。マルコ 13:2 です。『すると、イエスは彼に言われた。「この大きな建物を見ているのですか。ここで、どの石も崩されずに、ほかの石の上に残ることは決してありません。』たとえ立派な建物であっても、いつかは壊れます。自然の力はすごいですね。だから建物に長く住むには修繕が必要です。しかしイエス様はその時の流れによる劣化のことを話しているわけでもなさそうです。というのは、神殿ももちろん修復作業をちゃんとしていますし、何か特別なことが起こらない限り、神様のための神殿が壊されることはないでしょう。イエス様も弟子たちもそのことを分かっています。弟子たちはそれは世の終りのことを言っているのでは? と思い、イエス様に尋ねます。「お話しください。いつ、すべての終りが来るのでしょうか?」

イエス様は弟子たちの質問に答える形で、世の終りについて教えられました。13 章一杯に渡って、イエス様は世の終りのことを話しておられます。その中でイエス様は、世の終りの前に起こることを教えておられます。戦争や、地震、飢饉がある(13:7-8)とイエス様は仰っています。人々は互いに憎み合って、家族であっても、対立すること(13:12)を仰っています。偽預言者が現れて、自分が「イエスだ」という人も現れる(13:6、21-22)という事も仰っています。そしてイエス様を信じている人たちは、「イエス様を信じているから」という理由で捕らえられたり、打ちたたかれたりします(13:9-11)。恐ろしいですね。現代を見ると、まさにそのような時代が訪れているのかもしれないとも思います。各地で戦争のニュースを見ます。地震や飢饉のニュースも耳にします。また新型コロナウイルスが世界に広まって多くの人が苦しんでいます。偽預言者もたくさ

ん出ていますね。日本ではあまり耳にしないかもしれませんが、キリスト教系の異端と呼ばれる宗教は世界にたくさんあります。そしてとても興味深いのは、そのほとんどの異端の教祖は、自分が「再臨のイエスだ」と自称しているんですね。ですからはっきりと言います。だれかが教会で「自分は再臨のイエスだ」と言っていたら、それは異端の可能性が高いです。今日のお話の最後に言いますが、本物のイエス様が来られた時は、イエス様の方から皆さんのところに来てくださいますので、安心してください。イエス様を信じて歩む限り、イエス様の方から皆さんを見捨てることは決してありません。少し話を先取りしてしまいましたが、多くの偽預言者が現れています。そして「イエス様を信じているから」という理由で捕らえられている人も世界にはいます。日本もこの先どうなるか分かりません。このような様子を見ると、本当にイエス様が仰っている世の終りの前のことが起こっているように思います。ですからなおさら、いつ再臨が来るのかと恐ろしくなるかもしれません。しかしイエス様は最後まで耐え忍びなさいと仰います。

これらのことが起こると、イエス様が雲に乗ってやってこられるとイエス様は仰います。「そのとき人々は、人の子が雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来るのを見ます。 27 そのとき、人の子は御使いたちを遣わし、地の果てから天の果てまで、選ばれた者たちを四方から集めます。(マルコ 13:26-27)」今、私たちは地球が丸いということを知っています。丸い地球でイエス様が空から雲に乗ってやってこられたら、地球の反対側の人には見えないのかしら？と思いますね。日本の反対側はブラジルでしょうか。ブラジルの空の上にイエス様が現れたら、日本からは見えないのではないのでしょうか。そんな心配をする必要はありません。イエス様は神様ですから、この世界の法則を造られたお方です。何か不思議な方法でイエス様は世界どこからでも見えるかもしれません。というよりも神様がどのようなお方であるか改めて確認して頂きたいと思いま

す。これは再臨のこと、世の終りのことについて考える時に、特にこのことを意識して考えて頂きたいと思うのです。それは神様は真実で正しいお方(Iヨハネ 1:9)であるということです。そして愛のお方で、私たちが誰一人として滅ぶるのを望んでおられないお方(ヨハネ 3:16)です。ですから再臨の時、イエス様がブラジルの空に現れて日本から見えなかったとしても、イエス様は必ず私たちを救って下さいます。マルコ 13:27 でイエス様はこう仰っていましたね。「そのとき、人の子は御使いたちを遣わし、地の果てから天の果てまで、選ばれた者たちを四方から集めます。」イエス様は御使いを遣わし、地の果てから、天の果てまで、選ばれた者たちを四方から集めますと仰っています。その時、私たちが教会からずっと離れた山の上にポツンといいても、洞窟の中に閉じこもっていても、海の上にも、飛行機で飛んでいたとしても、どこにいても、イエス様はイエス様を信じる人々を集めてきます。イエス様の方から私たちを迎えに来てくださるのです。それはイエス様が私たちがそれほどまでに愛しておられ、大切に思っておられるからです。よく考えてみてください。イエス様にとって私たちは、十字架に架かっていのちを落としてまでも、助けたいと思われるくらい、大切な存在なのです。ですから再臨の時、世の終りの一大事の時に、イエス様が私たちに忘れるという事はあり得ません。

大事なことは、イエス様がどのようなお方であるか、神様がどのようなお方であるかをよく考えることです。マルコ 13:31 を読みます。「天地は消え去ります。しかし、わたしのことばは決して消え去ることがありません。」世の終り、再臨の時には、恐ろしいことが起こります。これまでの日常が崩れ去ります。とんでもない事が起きます。だから私たちはとても不安になります。だからこそイエス様は予め仰ってくださいました。そのような恐ろしいことは起こりません。しかし私を信じなさいとイエス様は仰います。天地は消え去ります。消え去るかもしれませんが、消え去りますとはっきりと仰っていますね。こ

の今の地上世界が終わらなければ新しい天と地は来ないので、それは確実です。だからこの世のものに希望を置いてはいけません。それらはやがて消え去るからです。しかし決して消え去ることのないお方がいらっしゃいます。神様は、イエス様は永遠のお方です。そして神様の約束、イエス様の約束も永遠です。だから私たちはイエス様を信じたいと思います。先週は、聖書の中の最も大切な戒めを見ました。律法学者は聖書を正しく読んで、最も大切な戒めを理解していました。しかしイエス様はその人は神の国から遠くないと仰いました。神の国には近いけれども、神の国に入るにはもう一つ重要な事がある。それはイエス様を救い主として信じることだと仰っていました。世の終り、再臨についてもそうです。聖書には世の終りについていろいろなことが書かれています。それらを整理して正しく理解することもできるかもしれませんが。そうしたらある程度、何が起こるか分かるかもしれませんが。しかし聖書に書かれている世の終りについての出来事の全てを理解しても、神の国に近づくことはできますが、神の国に入るにはもう一つ重要な事があります。それはイエス様を救い主として信じることです。

今日は世の終り、再臨について考えました。私たちがイエス様を信じて洗礼を受けた時の事を考えて頂きたいと思います。その時、私が良い事を下から救われたのではなかったはずです。ただ神様の恵みによって救われました。私たちは神様を信じ、救いを受け入れたのです。救いは私たちの内側からではなく、外側におられる神様からやってきました。世の終りの救いについても同じです。救いは私たちの外側におられる神様からやってきます。その救いを信じて、受け入れましょう。

世の終りについて

戦争、地震、飢饉がある

偽預言者が現れる

クリスチャンはキリストを信じているゆえに苦しめられる

最後まで耐え忍びなさい

キリストの再臨

イエス様はもう一度来るという事を約束されている 13:26-27

それは世の終りでもある

それは新しい天と地の始まりでもある

神様の言葉は滅びない

天地は消え去ります しかしわたしのことばは決して消え去ることがありません。

その日がいつなのか、どんな兆候があるのか、それよりも大事なこと

神様に信頼すること

神様の言葉、約束は絶対だから

イエス様が集めて下さる 13:27

集まれと呼びますではなく、集めて下さる

救いはいつも私たちの外側から